

会務

NEWS

京都弁護士会

No.
459

2010.1.1 ▶ 2010.1.31

CONTENTS

- 理事者だより 2
- 行事報告 4
- 日弁連・近弁連理事会報告 5
- 常議員会報告 20
- 研修等日程 23
- 委員会レポート&今月のイベント 24
- 付添人日記 35
- やってみました「あっせん」人 39
- 会員往来 43
- 会員のひろば 47
- 修習生日誌 51
- お知らせ 53
- 推薦人事 57
- 会員異動 57
- 新刊図書 58

会員のひろば

私の趣味

ヒマラヤ・エヴェレスト撮影記

会員 川 端 伸 也

京都弁護士会に入会した直後に「転勤と共に」という名目で検事時代に各地で撮影した写真の個展をやりましたが、その後、弁護士のO先生からお誘いを受け、S写真倶楽部に入会しました。この倶楽部で指導して頂いているプロのカメラマンがヒマラヤ・エヴェレスト撮影旅行を企画され、これに参加しましたので、その撮影旅行記をご紹介します。

平成20年12月7日午前10時に関西空港を出発し、香港へ行き、そこで5時間待って、ドラゴン航空の飛行機に乗り換え、午後10時に、ネパール民主連邦共和国首都カトマンズに到着し、8泊9日の撮影旅行が始まりました。私は、女房と共に参加し、勿論O先生も一緒に、約10数人のグループでした。

到着当日はエヴェレストというホテルに泊まり、現地での第1日目は、カトマンズ市内の観光と撮影が始まりました。カトマンズ市内は、舗装が不十分で、乾季であったことから、町は凄く埃っぽく、泥だらけの車が多くて、信号がなく大混雑していた上、追い抜くときは警笛を鳴らすことになっているようで、喧騒な状態でした。また、ヒンズー教の国ですから、牛がそこら中に寝そべっていたり、草を食べていたり、糞をしていたりで、全く清潔感に欠ける環境でした。それから、大きな川の河原には、掘っ立て小屋が建ち並んでいて、付近はゴミの山という状態。

専用バスで、先ず、郊外の村に入って、そこに住む老人や子供たちを撮影。子供たちには、にこ

にこ笑顔で「ナマステー」と言うと、相手は両手を合わせて「ナマステー」と返事してくれました。「こんにちわ」という挨拶言葉のよう



「ナマステー」の少女

した。それから、世界遺産の一つであるチャング・ナラヤンという古い寺院に行きましたが、ナラヤンは、大変細かい彫刻が施された寺院で、この国の歴史のただならぬ深さに感銘。アーム状の門を入れて、寺院を撮影。

カトマンズ市内のパタン・ダルバール広場で昼食をとって、孔雀の窓などの名所の撮影をして、その後、専用バスで、標高2100メートルのナガルコットに向かいました。この展望台で、東ヒマラヤの夕景や美しい夕焼けを撮影。ここで泊まったホテルは、プロスキーヤーの三浦雄一郎さんが、エヴェレストをスキーで滑降をしたときの、ベースキャンプということで、その時の写真が飾ってありました。夜に星空を撮影しようと思いましたが、停電で、失敗（停電中にセットしていたところ、撮影中に停電が解除となりパー）。

第2日目は、早朝、ホテルの屋上から、東ヒマラヤの朝焼けと日の出を、最大の望遠にして撮影しました。7000メートル級の山々が連なり、素晴らしい眺めでした。（因みに、日本最高峰の富士山は、3776メートル）そこから、カトマンズに戻る途中、いくつかの村の中に入り、地元の人の生活ぶりや広大な天空のヒマラヤを撮影。村の少年が外で釜の飯を食っているところや、中年の叔母さんが、おでこに大きな籠の持ち手をかけて、大きな荷物を運んでいる様子も撮影。

カトマンズに戻ってから、ヒマラヤそば屋（信州でそば作りの腕をつけて、日本の嫁さんを貰って、地元で採れるそば粉で、そばを作っているネパール人経営の店）で、ざるそばを食べましたが、

会員のひろば

結構いけました。その後、国内線の飛行機でポカラへ向かいましたが、機内から、マナスルなど西ヒマラヤが豪快に見え、凄いところへ来たなど実感。

ポカラの町は、霊峰マチャブチャレ（6339メートル）に見下ろされているような町で、早速ペワ湖に行き、湖に写るマチャブチャレを撮ろうと思いましたが、夕方、山は雲に隠れてしまい、撮影は失敗。このマチャブチャレは、未踏峰で、何でも宗教上の理由から、地元の住民が登山を許してくれないということでした。

第3日目は、国内線の飛行機で標高2600メートルのジョムソンに行くことになりましたが、高い山の谷間を通り抜けなければならず、風が強いと飛行機が山に当たる危険があるので、何時欠航に



ニルギリ (7061m)



藁を運ぶロバの行列



ジョムソン街道の雲

なるか分からないという話。飛行機は、霧の中を出発し、何とか無事に着きましたが、ここは、正面にニルギリ（7061メートル）がそびえており、高地で気温も下がり、相当なところへ来たという感じ。この日は、マルファ村へ片道7キロメートルのトレッキングをすることになり、途中、藁を積んだロバの行列に遭ったり、強風で絶えず雲の形が変わり、また、湧き上がる雲の流れを見るこ

とが出来、良いシャッターチャンスで撮影。しかし、高山のこの距離に足が疲れ、くたくたに。相当疲れた後でしたが、夕方には、山肌を赤く染めるニルギリや夕焼け雲に出会えました。また、夕焼けのダウラギリ（8167メートル）と満月の写真も撮影。この日は、標高の高いところでしたから、夜に冷え込み、湯たんぽを貸して貰いました。

第4日目は、また、危険な飛行機に乗り、何とか無事、ポカラに到着し、ペワ湖のレストランで昼食。その際、ペワ湖の湖面に写るマチャブチャレの撮影に成功。午後から4台のジープに分乗して、マチャブチャレをより近くから撮影するためダンプスへ向かいました。凄い急勾配の、がたがた道を進み、途中、棚田を撮影し、ダンプスに着いて高台に登りましたが、山が雲に隠れ夕景は、撮影失敗。



ペワ湖に写るマチャブチャレ

この日のホテルは、着いたときから停電で、ろうそくの明かりで夕食。夜は、ホテルの若者とキャンプファイヤー。

第5日目は、早朝4時ころから星空の撮影の準備を始め、撮影を試みるも、またもや満月で失敗。そして、この旅行のクライマックスの、朝焼けに輝くマチャブチャレとアンナプルナ・サウス（7219メートル）の撮影に臨む。昨日の夕方とは打って変わった快晴の下、朝焼けに山肌の色を赤く変え

会員のひろば



朝日に輝くマチャプチャレ



朝日を浴びたアンナプルナ・サウス



藁の上の少女

マチャプチャレを背景に、藁の上で飛び跳ねる地元の少女たちを発見。女房を呼んで2人で見ていたのですが、撮影をした後、私の方に少女たちが来たので、たまたまポケットに入っていたフリスクを御礼にあ



民族舞踊を踊る少女

たマチャプチャレとアンナプルナ・サウスの素晴らしい姿に感激。シャッターを切りまくる。この日、マチャプチャレの右側麓が山火事になっていましたが、消火活動に行く人は、いる筈もなく、燃えるがまま。

ダンプスからの帰りも、ジープで幾つかの村を回り、ヒマラヤや村人を撮影。たまたま、私が、1人で高台に登って行ったところ、マチャプチャ

レとアンナプルナ・サウスの素晴らしい姿に感激。シャッターを切りまくる。この日、マチャプチャレの右側麓が山火事になっていましたが、消火活動に行く人は、いる筈もなく、燃えるがまま。すると、少女たちは、今度は、歌いながら民族舞踊を踊り始めました。予想もしない状況となり、滅多に巡り会えない、絶好の機会だと感じ、この時は、もう夢中で、写真ではなく、動画で撮影してしまいました。でも、この動画は、NHKも多分持っていない代物で、現在の私の宝物になっています。

その後、ダンプスからポカラに戻る途中、牛を沢山飼っている村に寄って、子供や村人の撮影。この日は、再びポカラ泊となりましたが、女房と同行しておられたご婦人とガイドの女性の3人が、地元の婦人用民族衣装を安く手に入れ、夜に、それを身につけて、皆とはしゃぐ。



村の少年

第6日目は、早朝、暗い内からサラコットの丘へ行き、別の角度から、マチャプチャレとアンナプルナ・サウスの撮影。この日も快晴の凄い朝焼けで、特に、アンナプルナ・サウスの山肌の色合いがまばゆいほどで、またまた、感激。ここからは、マナスルも良く見えた。その後、飛行機でカトマンズに飛び、機中から見えるヒマラヤを楽しみ、午後から、カトマンズ市内の目玉寺と呼ばれる仏教寺院スワヤンブナートなどへ行って、特異な形の寺院を撮影。



はしゃぐプロカメラマンと美女たち

第7日目の最後の日、この旅行の中のハイライトの一つで、セスナに乗って、世界最高峰のエヴェレスト（8848メートル）を観光するオプションが有り、これに参加。エヴェレストは、午前中

会員のひろば

しか顔を見せず、その近辺の気流が激しくて、気象の変化があり、直ぐ運行が中止になるということ。現地の気象状態が良くても、出発地のカトマンズが濃霧で出発できないときもあり、相当、運が作用するという。3日間、セスナの飛行を、待った人もあったという。午前6時30分発の予定で、空港まで行って待機していたところ、出発するとの連絡。しかし、過去に、2便出発の予定であったところ、第1便出発後に気象状態が悪くなって、第2便が欠航したこともあるというので、最後の最後まで、気を揉まされた。

しかし、同行者の日頃の善行の積み重ねのお陰で、この旅行は、全日、晴天に恵まれ、この日も、気象条件にも恵まれ、我々の乗ったセスナは、朝霧の中、一発で上空に舞い上がりました。行き帰り約40分の飛行で、10分もしない内に、東ヒマラヤの山々が目の前に厳然と現れ始めました。青空の下、7000メートル級の山岳の行列。あらかじめ渡されていたパンフレットの地図を見て、どれがどの山かな、といいながら、撮影を繰り返す。

ところが、エヴェレストが近くなってきてから、突然、コックピットが開き、操縦席の後から順番に写真を撮れというということになる。急なことで、興奮し、飛行機は揺れるし、手ぶれするし、早く撮らないといけない気持ちもあり、何枚かは撮ったが、きりっとしたものが撮れず、直ぐ自分



エヴェレスト

の持ち時間がなくなってしまった。その後も、自席に戻って離れゆくエヴェレストを撮影。しかし、窓ガラスが汚れていたこともあって、満足のいく写真撮影に失敗。でも、眼前に、天空のトップ・オブ・ザ・ワールドのエヴェレストがあり、これを自分の目で見たのだという大きな感動が、胸を突き刺しました。興奮冷めやらぬうちに、カトマンズ空港に着陸し、乗ったセスナの記念写真を撮影。

それから、野菜市場、羊取引市場を見学し、第二の目玉寺であるチベット仏教の巡礼地ボダナート寺院を撮影。午後からは、王宮へ行き、クマリの館、シバ神の化身などを撮影。混雑した町中を通り抜け、ネパール料理店で最後の晩餐。ここでは、ネパール舞踊やクジャクの舞を見ながら、モモという料理を頂きました。モモというのは、蒸し餃子のようなもので、皮の中に鳥や野菜を煮たものなど、いろいろなものが入っていました。旅行中何度が出ましたが、私は、これが、一番口に合いました。

この日の夜に、カトマンズ空港から香港へ向かい、そこで乗り換えて、次の日に、関西空港にたどり着きました。

この撮影旅行でも、デジカメ派と、銀塩派に分かれ、私は、デジカメ派で、一眼レフのニコンD90とキャノンのパワーショットS3を使い分けました。多くの方は、銀塩フィルムカメラを使って、大きな重たい三脚を持ち運びしておられました。デジカメは、撮った写真を直ぐ見られるという点で高い評価があり、羨ましがられました。プロカメラマンは、双方を使い分けておられました。

日本にも、いろいろ良いところがありますが、世界には、それ以上に、いろいろな良いところがあり、ネパールでは、感激、感動の連続で、素晴らしい体験をし、その分の写真を撮ってきました。今後とも、大いに、いろいろなものを見て、体験して、撮影してみたいと思っています。